

(様式第 10)

九州厚生局長 殿

福大病院 第 144 号
平成 26 年 10 月 3 日

学校法人 福岡大学
理事長 鎌田迪貞(印)

福岡大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号
氏 名	学校法人福岡大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

福岡大学病院

3 所在の場所

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45番1号 電話(092)801-1011

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

☒ 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	☒ 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1. 神経内科 2. 呼吸器科 3. 消化器科 4. 循環器科 5. アレルギー科 6. リウマチ科 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名						
1. 形成外科	2. 美容外科	3. 呼吸器外科	4. 心臓血管外科	5. 小児外科	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1. 歯科口腔外科	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1. こう門科	2. リハビリテーション科	3. 病理診断科	4.	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
60 床	床	床	床	855 床	915 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	389人	71人	426.3人	看 護 補 助 者	52人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	8人	5人	9.9人	理 学 療 法 士	23人	臨床検査技師	78人
薬 剤 師	58人	0人	58.0人	作 業 療 法 士	9人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	5人	そ の 他	0人
助 産 師	40人	0人	40.0人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	1023人	5人	1027.4人	臨 床 工 学 技 士	14人	医療社会事業従事者	3人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	2人	その他の技術員	23人
歯科衛生士	1人	1人	2.0人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	136人
管理栄養士	11人	1人	12.0人	診療放射線技師	46人	その他の職員	32人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年4月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	25人	眼 科 専 門 医	8人
外 科 専 門 医	35人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精 神 科 専 門 医	9人	放射線科専門医	12人
小 児 科 専 門 医	18人	脳神経外科専門医	11人
皮 膚 科 専 門 医	6人	整形外科専門医	18人
泌尿器科専門医	7人	麻 酔 科 専 門 医	14人
産婦人科専門医	12人	救 急 科 専 門 医	11人
		合 計	193人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	778.0人	5.46人	783.4人
1日当たり平均外来患者数	1,217.4人	49.2人	1,266.6人
1日当たり平均調剤数	1,194剤		
必要医師数	170人		
必要歯科医師数	4人		
必要薬剤師数	26人		
必要(准)看護師数	441人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要
集中治療室	m ² 291.63	鉄筋 コンクリート造	病床数 14床
			心電計 有・無
			人工呼吸装置 有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 12.80m ² [移動式の場合] 台数 6台		その他の救急蘇生装置 有・無
			ペースメーカー 有・無
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 16.80m ² 共用する室名	病床数 1床
化学検査室	307.80m ²	同上	(主な設備) 生化学自動分析装置、全自動化学発光免疫測定装置
細菌検査室	109.90m ²	同上	(主な設備) 自動血液培養・抗酸菌培養装置、嫌気チャンバー
病理検査室	204.23m ²	同上	(主な設備) 電動ミクロトーム、自動包埋脱水装置、凍結切片作成機クリオスタット、自動染色装置
病理解剖室	132.80m ²	同上	(主な設備) 解剖台、カラー撮影装置、スライサー
研究室	5,367.23m ²	同上	(主な設備) 超小型カラーテレビ 他
講義室	372.90m ²	同上	室数 2室 収容定員 400人
図書室	2,246.16m ²	同上	室数 3室 蔵書数 129,218冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率		59.7%	逆紹介率 47.2%
算出根拠	A: 紹介患者の数	14,686人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	13,322人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	2,153人	
	D: 初診の患者の数	28,204人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
食道アカラシア等に対する経口内視鏡的筋層切開術	45人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インスリン依存状態糖尿病の治療として心停止ドナー膵島移植	0人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	0人
慢性心不全に対する和温療法 慢性心不全	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	41人	・膿疱性乾癬	18人
・多発性硬化症	53人	・広範脊柱管狭窄症	28人
・重症筋無力症	90人	・原発性胆汁性肝硬変	60人
・全身性エリテマトーデス	141人	・重症急性膵炎	9人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	88人
・再生不良性貧血	16人	・混合性結合組織病	15人
・サルコイドーシス	47人	・原発性免疫不全症候群	1人
・筋萎縮性側索硬化症	12人	・特発性間質性肺炎	43人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	77人	・網膜色素変性症	32人
・特発性血小板減少性紫斑病	46人	・プリオン病	3人
・結節性動脈周囲炎	20人	・肺動脈性肺高血圧症	4人
・潰瘍性大腸炎	242人	・神経線維腫症	39人
・大動脈炎症候群	18人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	6人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	11人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4人
・脊髄小脳変性症	71人	・ライソゾーム病	8人
・クローン病	142人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	12人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	164人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	0人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	14人
・後縦靱帯骨化症	81人	・肥大型心筋症	4人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	75人	・ミトコンドリア病	3人
・ウェゲナー肉芽腫症	3人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	11人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	43人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	2人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	23人	・黄色靱帯骨化症	8人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	82人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・歯科外来診療環境体制加算	・救急搬送患者地域連携受入加算
・特定機能病院入院基本料 (一般病棟7対1入院基本料)	・データ提出加算2
・特定機能病院入院基本料 (精神病棟13対1入院基本料)	・地域歯科診療支援病院入院加算
・臨床研修病院入院診療加算	・救命救急入院料1
・救急医療管理加算	・救命救急入院料4
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料1
・妊産婦緊急搬送入院加算	・特定集中治療室管理料2
・診療録管理体制加算	・ハイケアユニット入院医療管理料
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・看護補助加算2(50対1)	・総合周産期特定集中治療室管理料
・療養環境加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・小児入院医療管理料1
・無菌治療室管理料2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算含む)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・退院調整加算	・
・新生児特定集中治療室退院調整加算(1,2)	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・糖尿病合併症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・神経学的検査
・がん患者カウンセリング料	・補聴器適合検査
・外来緩和ケア管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・移植後患者指導管理料(臓器移植の場合)	・小児食物アレルギー負荷検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・外来リハビリテーション料	・センチネルリンパ節生検
・外来放射線照射診療料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・ニコチン依存症管理料	・画像診断管理加算2
・地域連携診療計画管理料	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅱ)	・CT撮影及びMRI撮影
・がん治療連携計画策定料	・冠動脈CT撮影加算
・がん治療連携管理料	・心臓MRI撮影加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・外傷全身CT加算
・薬剤管理指導料	・大腸CT撮影加算
・医療機器安全管理料1	・抗癌性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料2	・外来化学療法加算1
・医療機器安全管理料(歯科)	・無菌製剤処理料
・歯科治療総合医療管理料	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)初期加算含む
・造血器腫瘍遺伝子検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)初期加算含む
・HPV核酸検査	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)初期加算含む
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・運動器リハビリテーション料(Ⅱ)
・植込型心電図検査	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)初期加算含む
・時間内歩行試験	・がん患者リハビリテーション料(Ⅰ)
・胎児心エコー法	・精神科作業療法

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・精神科ショート・ケア「大規模なもの」	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・精神科デイ・ケア「大規模なもの」	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・認知症・認知行動療法2	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術
・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・医療保護入院等診療料	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・補助人工心臓
・透析液水質確保加算1	・経皮的動脈遮断術
・一酸化窒素吸入療法	・ダメージコントロール手術
・歯科技工加算	・生体部分肝移植術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・組織拡張器による再建手術(一次再建の場合)	・腹腔鏡下肝切除術
・組織拡張器による再建手術(二次再建の場合)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・人工乳房(一次一期的再建の場合)	・同種死体腎移植術
・人工乳房(一次二期的再建及び二次再建の場合)	・生体腎移植術
・自家培養軟骨	・膀胱水圧拡張術
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・輸血管理料(Ⅰ)
・人工内耳植込術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)	・歯周組織再生誘導手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及び2	・麻酔管理料(Ⅰ)
・同種死体肺移植術	・麻酔管理料(Ⅱ)
・生体部分肺移植術	・放射線治療専任加算
・経皮的冠動脈形成術(高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの)	・外来放射線治療加算
・経皮的中隔心筋焼灼術	・高エネルギー放射線治療

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・先天性難聴の遺伝子診断	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	泌尿器、乳腺、外科病理、腎、皮膚、消化器、乳腺画像、脳外科、肺がんの各カンファレンス 計160回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 28例 / 剖検率 9.30%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名 (掲載号、ページ、掲載年月日)
1	高松 泰	腫瘍・血液・感染症内科	Bortezomib, doxorubicin and intermediate-dose dexamethasone (iPAD) therapy for relapsed or refractory multiple myeloma: a multicenter phase 2 study.	Int J Hematol 98:179-185, 2013
2	茂木 愛	腫瘍・血液・感染症内科	Expression and role of GLUT-1, MCT-1, and MCT-4 in malignant pleural mesothelioma.	Virchows Arch 462:83-93,2013
3	高田 徹	腫瘍・血液・感染症内科	Presence of both heterogeneous vancomycin-intermediate resistance and β -lactam antibiotic-induced vancomycin resistance phenotypes is associated with the outcome in methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> bloodstream infection.	Scand J Infect Dis 45(3):203-212, 2013
4	柳瀬 敏彦	内分泌・糖尿病内科	Identification of endocrine disrupting chemicals activating SXR-mediated transactivation of CYP3A and CYP7A1.	Mol Cell Endocrinol 365:36-43, 2013
5	柳瀬 敏彦	内分泌・糖尿病内科	Roles for corticotropin-releasing factor receptor type 1 in energy homeostasis in mice.	Metabolism 62:1739-48, 2013
6	村瀬 邦崇	内分泌・糖尿病内科	Prevalence and clinical characteristics of primary aldosteronism in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus and hypertension.	Endocr J 60(8):967-976, 2013
7	柳瀬 敏彦	内分泌・糖尿病内科	Proposed diagnostic criteria for subclinical Cushing's syndrome associated with adrenal incidentaloma.	Endocr J 60:903-12, 2013
8	柳瀬 敏彦	内分泌・糖尿病内科	Surgically Proven Normocalcemic Primary Hyperparathyroidism: Speculation of the Possible Role of Estrogen in the Etiology of this Disease in Premenopausal Women.	Intern Med 52:781-5, 2013
9	柳瀬 敏彦	内分泌・糖尿病内科	Idiopathic orbital myositis associated with graves' disease.	Intern Med 52:787-90, 2013
10	上原 吉就	循環器内科	FAMP, a Novel ApoA-I Mimetic Peptide, Suppresses Aortic Plaque Formation Through Promotion of Biological HDL Function in ApoE-Deficient Mice.	J Am Heart Assoc. May 24;2(3), 2013
11	末松 保憲	循環器内科	Safety and feasibility of high-dose administration of nicorandil before reperfusion therapy in acute myocardial infarction.	Cardiovascular Intervention Therapeutics. 28(4):352-61, 2013
12	上原 吉就	循環器内科	Induction of tissue angiotensin II-forming activity in two-kidney, one-clip hypertensive hamster model.	World Journal of Hypertension 3(2):9-17, 2013
13	熊谷 尚子	循環器内科	Effects of ezetimibe on hypercholesterolemia in the lipid profile patients with metabolic syndrome : Zenith Trial.	IJC Metabolic & Endocrine 7-2, 2013
14	森井 誠士	循環器内科	Comparison of the efficacies of irbesartan and olmesartan after successful coronary stent implantation.	Intern Med. 52(7):713-9, 2013
15	三浦 伸一郎	循環器内科	Reassessment of the unique mode of binding between angiotensin II type 1 receptor and their blockers.	PLoS One. 8;8(11):e79914, 2013

16	三浦 伸一郎	循環器内科	Ability of the new AT1 receptor blocker azilsartan to block angiotensin II-induced AT1 receptor activation after wash-out.	J Renin Angiotensin Aldosterone Syst.15(1):7-12, 2014
17	永田 済	循環器内科	Comparison of the efficacy and safety of single-pill fixed-dose combinations of olmesartan/azelnidipine and valsartan/amlodipine in patients with hypertension (RENOVATE Study).	Exp Clin Cardiol.20(1):1920-1938, 2014
18	宮瀬 祐依子	循環器内科	The ratio of low-frequency to high-frequency in ambulatory electrocardiographic monitoring immediately before coronary angiography as a predictor of the presence of coronary artery disease.	J Clin Med Res. Feb;6(1):36-43, 2014
19	末松 保憲	循環器内科	Associations between the consumption of different kinds of seafood and out-of-hospital cardiac arrests of cardiac origin in Japan.	IJC Heart & Vessels 8-14, 2014
20	杉原 英和	循環器内科	Coronary Tube Detected on 64-Multidetector Row CT.	Intern Med. 52: 833-834, 2013
21	福田 佑介	循環器内科	Effects of treatment with a combination of cardiac rehabilitation and bosentan in patients with pulmonary Langerhans cell histiocytosis associated with pulmonary hypertension.	European Journal of Preventive Cardiology Epub ahead of print 2013
22	加藤 悠太	循環器内科	Right heart thrombosis with pulmonary embolism.	Intern Med 52(15):1745-6, 2013
23	福田 佑介	循環器内科	Buerger's disease.	Intern Med. 52(5):639, 2013
24	矢野 雅也	循環器内科	Epicarditis with late postoperative period pectus excavatum.	Intern Med. 52(5):637-8, 2013
25	永田 済	循環器内科	Patent ductus arteriosus detected on 64-multidetector row CT.	Intern Med. 52(3):405-6, 2013
26	早田 哲郎	消化器内科	Elevated paraneoplastic hypercholesterolemia in a case of hepatoid adenocarcinoma of the stomach with liver metastasis	Clinical Journal of Gastroenterology, (Vol 6(6),424~428,2013)
27	早田 哲郎	消化器内科	3-Hydroxyl-3-methylglutaryl-coenzyme A reductase is up regulated in hepatocellular carcinoma associated with paraneoplastic hypercholesterolemia	Med Mol Morphol. (Vol46(4),239~242,2013)
28	平野 玄竜	消化器内科	Desmoplastic small round cell tumors in a young man	Internal Medicine (Vol.52,1909~1914,2013)
29	櫻井 邦俊	消化器内科	Immunohistochemical Demonstration of Transferrin Receptor 1 And 2 in Human Hepatocellular Carcinoma Tissue	Hepato-Gastroenterology (Vol 61,426~430,2014)
30	松本 武格	呼吸器内科	Elevation of serum C-reactive protein predicts failure of the initial antimicrobial treatment for febrile neutropenia with lung cancer.	J Infect Chemother Vol 19(2)202~207,2013
31	石井 寛	呼吸器内科	Pharmacological therapy does not contribute to survival in idiopathic pulmonary fibrosis	Respiration Vol 86(1) 86~87,2013
32	渡辺 憲太郎	呼吸器内科	Pleuroparenchymal Fibroelastosis: Its Clinical Characteristics	Current Respiratory Medicine Reviews Vol 9 229~237,2013
33	渡辺 憲太郎	呼吸器内科	Editorial from Guest Editor: Is Pleuroparenchymal Fibroelastosis the Same Disorder as Pulmonary Upper Lobe Fibrosis?	Current Respiratory Medicine Reviews Vol 9 227~228,2013
34	井福 正和	腎臓・膠原病内科	Various roles of Th cytokine mRNA expression in different forms of glomerulonephritis.	American Journal of Nephrology 38(2):115-23, 2013

35	中島 裕子	腎臓・膠原病内科	Wernicke's encephalopathy that developed during the introduction period of peritoneal dialysis.	Internal Medicine 52(18):2093-7,2013
36	渡辺 廉也	腎臓・膠原病内科	Distinct cytokine mRNA expression pattern in immunoglobulin G4-related kidney disease associated with renal cell carcinoma	Clin Kidney 7(3): 269-274,2014
37	緒方 利安	神経内科・健康管理科	Association of Deep Venous Thrombosis with Calf Vein Diameter in Acute Hemorrhagic Stroke.	J Stroke Cerebrovasc Dis.22(7): 1002-5, 2013
38	緒方 利安	神経内科・健康管理科	EPITHET and DEFUSE Investigators. The effects of alteplase 3 to 6 hours after stroke in the EPITHET-DEFUSE combined dataset: post hoc case-control study.	Stroke. 44(1): 87-93, 2013
39	緒方 利安	神経内科・健康管理科	Clinical and radiological correlation in patients with vertebrobasilar artery occlusion.	Neurology and Clinical Neuroscience. 1 (4): 168-171, 2013
40	尾籠 晃司	精神神経科	Discordance in the anatomical locations between morphological and perfusion changes occurring with the progression of Alzheimer's disease.	Ann Nucl Med. 27:371-377,2013
41	廣瀬 伸一	小児科	SCN1A testing for epilepsy: Application in clinical practice	Epilepsia (vol.54(5);946- 952,2013)
42	井上 貴仁	小児科	Newborn screening for Fabry disease in Japan: Prevalence and genotypes of Fabry disease in a pilot study	J Hum Genet (vol.58;548-552,2013)
43	石井 敦士	小児科	Identification of <i>ATPIA3</i> Mutations by Exome Sequencing as the Cause of Alternating Hemiplegia of Childhood in Japanese Patients	PLOS ONE (vol.8 (2);e56120,2013)
44	石井 敦士	小児科	Genetic analysis of PRRT2 for benign infantile epilepsy, infantile convulsions with choreoathetosis syndrome, and benign convulsions with mild gastroenteritis	Brain Dev (vol.35 (6);524- 530,2013)
45	日暮 憲道	小児科	PCDH19-related female-limited epilepsy: Further details regarding early clinical features and therapeutic efficacy	Epilepsy Res (vol.106;191- 199,2013)
46	星野 誠一郎	消化器外科	A Study of the Efficacy of Antibacterial Sutures for Surgical Site Infection: A Retrospective Controlled Trial	International Surgery Vol 98(2):129-132,2013
47	武野 慎祐	消化器外科	Is the Prognostic Impact of Tumor Location in Patients with Surgically Resected Esophageal Squamous Cell Carcinoma Affected by Surgical Approach?	European Surgical Research Vol 51(1-2):91-98,2013
48	武野 慎祐	消化器外科	Retrospective study using the propensity score to clarify the oncologic feasibility of thoracoscopic esophagectomy in patients with esophageal cancer	World J Surg. Vol 37(7):1673-1680,2013
49	武野 慎祐	消化器外科	Surgical resection for cancer located mainly in the lower esophagus	Hepatogastroenterolog y Vol 60(128):1955- 1960,2013
50	武野 慎祐	消化器外科	Reconstruction using a free jejunal graft after resection of the cervical esophagus for malignancy	Hepatogastroenterolog y Vol 60(128):1966- 1971,2013
51	橋本 竜哉	消化器外科	Characteristics of intramural metastasis in gastric cancer	Gastric Cancer Vol 16(4):537-542,2013
52	大石 純	消化器外科	Imatinib mesylate inhibits cell growth of malignant peripheral nerve sheath tumors in vitro and in vivo through suppression of PDGFR- β	BMC CANCER Vol 13:224,2013

53	佐々木 隆光	消化器外科	The role of epidermal growth factor receptor in cancer metastasis and microenvironment	BioMed Res Int. Vol 2013 Article ID 546318, 8 pages 2013
54	吉田 陽一郎	消化器外科	Efficacy of XELOX plus Bevacizumab in Brain Metastasis from Rectal Cancer	Case Reports in Oncology Vol 7(1):117-121,2014
55	佐々木 隆光	消化器外科	AKT Activation and Telomerase Reverse Transcriptase Expression are Concurrently Associated with Prognosis of Gastric Cancer	Pathobiology Vol 81(1):36-41,2014
56	山下 眞一	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	Totally thoracoscopic surgery and troubleshooting for bleeding in non-small cell lung cancer.	Ann Thorac Surg.95(3):994-9, 2013
57	吉永 康熙	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	Image and Pathological Changes after Radiofrequency Ablation of Invasive Breast Cancer: A Pilot Study of Nonsurgical Therapy of Early Breast Cancer.	World J Surg. 37: 356-363,2013
58	柳澤 純	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	Successful lung volume reduction surgery in an infant with emphysema after respiratory syncytial virus-induced obliterative bronchiolitis.	J Thorac Cardiovasc Surg. May;145(5): e47-9,2013
59	西尾 淳	整形外科	Intramuscular schwannoma of the musculocutaneous nerve: An uncommon clinical presentation	Experimental and Therapeutic Medicine6:164-166, 2013
60	西尾 淳	整形外科	Painless Angioleiomyoma of the First Web Space of the Hand	In Vivo Vol 27:519-522, 2013
61	西尾 淳	整形外科	Imaging Features of Desmoid-typw Fibromatosis in the Teres Major Muscle	In Vivo Vol 27:555-559, 2013
62	西尾 淳	整形外科	Fibrolipoma of the Ring Finger: MR Imaging and Histological Correlation	In Vivo Vol 27:541-544, 2013
63	西尾 淳	整形外科	Scapular osteochondrolipoma: Imaging features with pathological correlation	Oncology Letter Vol s6: 817-820, 2013
64	西尾 淳	整形外科	Collagenous Fibroma (Desmoplastic Fibroblastoma) with Trisomy 8 as the Sole Cytogenetic Abnormality	Anticancer Research33: 3259-3262, 2013
65	山元 孝亮	整形外科	Solitary schwannoma of the sural nerve: An unusual clinical presentation	EXPERIMENTAL AND THERAPEUTIC MEDICINE Vol 7: 90-92, 2014
66	西尾 淳	整形外科	PET-positive Polyosteotic Fibrous Dysplasia Mimicking Ollier Disease	In Vivo Vol 27: 821-826, 2013
67	吉村 一朗	整形外科	The "Cup-Shaped" Technique for Uncontained Osteochondral Lesion of the Talus	Arthroscopy Techniques Vol 2(4): e347-e350, 2013
68	西尾 淳	整形外科	FDG PET/CT Findings of Superficial Angiomyxoma	Clinical Nuclear Medicine Vol 39(4):367-370, 2014
69	前山 彰	整形外科	Deformation of the patellofemoral joint caused by synovial hemangioma: a case repor	J Pediatr Orthop B2014 Vol 23(4):346-349, 2014
70	佐伯 和彦	整形外科	Effect of Medial Epicondylar Osteotomy od Soft Tissue Balancing in Total Knee Arthroplasty	ORTHOPEDICS Vol 36(11): 1353-1357, 2013
71	黒田 大輔	整形外科	Dynamic hip stability, strength and pain before and after hip abductor strengthening exercises for patients with dysplastic hips	Isokinetics and Exercise Science Vol 21: 95-100, 2013
72	小阪 英智	整形外科	Imageing Features of Periosteal Chondroma Manifesting as a Subcutaneous Mass in the Index Finger	Case Rep Orthop Vol 2014:763480, 2014
73	高木 誠司	形成外科	Vascular augmentation of an extended latissimus dorsi myocutaneous flap through an intercostal vessel:A preliminary report	Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery Vol47(2):123-125,2013

74	福田 健治	脳神経外科、国立循環器病研究センター脳神経外科	Pregnancy and Delivery Management in Patients With Cerebral Arteriovenous Malformation: A Single-Center Experience	Neurologia medico-chirurgica 53(8):565-570, 2013
75	竹本 光一郎	脳神経外科、放射線科、病理	Quantitative evaluation using the plaque/muscle ratio index predicts plaque type and risk of embolism in patients undergoing carotid artery stenting.	Clin Neurol Neurosurg. 115(8):1298-1303, 2013
76	岩朝 光利	脳神経外科、救命救急センター	Safety and feasibility combined coiling and neuroendoscopy for better outcomes in the treatment of severe subarachnoid hemorrhage accompanied by massive intraventricular hemorrhage	Journal of clinical neuroscience 20(9):1264-1268, 2013
77	上羽 哲也	脳神経外科、放射線科	Identification of venous sinus, tumor location, and pial supply during meningioma surgery by transdural indocyanine green videography	J Neurosurg 118: 632-636, 2013
78	上羽 哲也	脳神経外科	Transdural Imaging of Meningiomas by Indocyanine Green Videography: The Eclipse Sign	J Neurol Surg A 74:51-53, 2013
79	大川 将和	脳神経外科	Surgical management of a ruptured posterior choroidal intraventricular aneurysm associated with moyamoya disease	Central European Journal of Medicine 8(6): 818-821, 2013
80	上羽 哲也	脳神経外科、リハビリテーション部	Feasibility and Safety of Acute Phase Rehabilitation After Stroke Using the Hybrid Assistive Limb Robot Suit	Neurologia medico-chirurgica 53(5):287-290, 2013
81	上羽 哲也	脳神経外科、放射線科、病理	Central nervous system marginal zone B-cell lymphoma of mucosa-associated lymphoid tissue type involving the brain and spinal cord parenchyma	Neuropathology 33:306-311, 2013
82	桑原 豪	心臓血管外科、再生・移植医学	Vascular endothelial growth factor-C derived from CD11b+ cells induces therapeutic improvements in a murine model of hind limb ischemia	J Vasc Surg Vol.57(4):1909-1099, 2013
83	佐藤 絵美	皮膚科	Vitamin D-dependent cathelicidin inhibits Mycobacterium marinum infection in human monocytic cells.	J Dermatol Sci Vol 70(3) 166-172, 2013
84	古賀 文二	皮膚科	Disseminated herpes simplex virus type-1 infection in long-term usage of everolimus.	J Dermatol Vol 40(1) 83-84, 2013
85	今福 信一	皮膚科	Improvement of palmoplantar pustulosis by mizoribine.	J Dermatol Vol 40(1) 57, 2013
86	伊藤 宏太郎	皮膚科	Therapeutic preferences are different in psoriatic and atopic dermatitis patients: A questionnaire-based study.	J Dermatol Vol 40(4) 292-294, 2013
87	今福 信一	皮膚科	Profile of patients with psoriasis associated with hepatitis C virus infection.	J Dermatol Vol 40(6) 428-433, 2013
88	古賀 文二	皮膚科	Development of milium tuberculosis related to anti-tumor necrosis factor-alpha inhibitor therapy for pustular psoriasis.	J Dermatol Vol 40(6) 476-477, 2013
89	伊藤 宏太郎	皮膚科	Case report of anti-transcription intermediary factor-1- γ / α antibody-positive dermatomyositis associated with gastric cancer and immunoglobulin G4-positive pulmonary inflammatory pseudotumor.	J Dermatol Vol 40(7) 567-569, 2013
90	中山 樹一郎	皮膚科	In vitro responses of neurofibroma fibroblasts, mast cells and Schwann cells obtained from patients with neurofibromatosis 1 to 308-nm excimer light and/or vitamin D3.	J Dermatol Vol 40(9) 743-745, 2013
91	今福 信一	皮膚科	Possible association of hepatitis C virus infection with late-onset psoriasis: A hospital-based observational study.	J Dermatol Vol 40(10) 813-818, 2013

92	中山 樹一郎	皮膚科	Narrowband ultraviolet B irradiation increases the serum level of vitamin D3 in patients with neurofibromatosis 1.	J Dermatol Vol 40(10) 829-831, 2013
93	古賀 文二	皮膚科	Congenital Spitz nevus on the foot	J Dermatol Vol 41(3) 282-283, 2014
94	古屋 隆三郎	泌尿器科	In vitro activities of antimicrobial combinations against clinical isolates of Neisseria gonorrhoeae	J Infect Chemother 19(6):1218-1220,2013
95	四元 房典	産婦人科、生化学教室	Molecular Hierarchy of Heparin-Binding EGR-like Growth Factor-Regulated Angiogenesis in Triple-Negative Breast	Mol Cancer Res 11(5):506-17, 2013
96	伊東 裕子	産婦人科	The role of serum adiponectin levels in woman with polycystic ovarian syndrome	Clin Exp Obstet Gynecol 40 : 531-535, 2013
97	南 星旭	産婦人科	Possible therapeutic targets among the molecules involved in the Warburg effect in tumor cells	Anticancer Res 33 : 2855-2860, 2013
98	内尾 英一	眼科	Anti-adenoviral effects of hCAP-18/LL37, an antimicrobial peptide, in vitro confirmed by quantitative polymerase chain reaction methods	Kor J Ophthalmol 27: 199-203, 2013
99	光藤 利通	放射線科	Measurement consistency of MR elastography at 3.0 T: comparison among three different region-of-interest placement	Jpn J Radiol Vol 31(5): 336-341, 2013
100	高野 浩一	放射線科	MRI of intracranial vertebral artery dissection: evaluation of intramural haematoma using a black blood, variable-flip-angle 3D turbo spin-echo sequence	Neuroradiology Vol 55(7): 845-851, 2013
101	高良 真一	放射線科	Warming effect on miriplatin-lipiodol suspension for potential use as a chemotherapeutic agent for transarterial chemoembolization for hepatocellular carcinoma: in vitro study	Hepatology Research Vol 43(10): 1100- 1104, 2013
102	仁田原 慶一	麻酔科学	Effect of bolus injection of 20 ml saline with arm elevation on the onset time of vecuronium administered via a peripheral vein: a randomised controlled trial	Anaesthesia 68(9): 904-907, 2013
103	渡邊 淳子	リハビリテーション部	Improvement of cognitive function after Carotid Endarterectomy-A New Strategy for the Evaluation of Cognitive Function	Journal of Stroke and Cerebrovasclar Diseases Vol 23(6)1332- 1336,2014
104	古賀 佳織	病理部	Association of c-Met phosphorylation with micropapillary pattern and small cluster invasion in pT1-size lung adenocarcinoma.	Lung Cancer Vol 82: 413-419, 2013
105	青木 光希子	病理部	Identification of APN/CD13 as the target antigen of FU3, a human monoclonal antibody that recognizes malignant fibrous	Int J Oncol Vol 43: 57-62, 2013

合計105

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名 (掲載号、ページ、掲載年月日)
1	寺脇 悠一	内分泌・糖尿病内科	DPP-4阻害薬シタグリプチンを用いたBOTの有効性の検討.	Progress in Medicine 33:2217-2221, 2013
2	野見山 崇	内分泌・糖尿病内科	糖尿病患者に対する血糖平坦化を目指したミグリトールとインスリン併用療法の有用性の検討 血糖自己測定(SMBG)を用いた評価.	Therapeutic Research 34:1503-1511, 2013
3	野見山 崇	内分泌・糖尿病内科	インスリン分泌促進薬の血糖変動に対する効果検討 レパグリニドとグリメピリドの比較.	Pharma Medica 31:85-88, 2013
4	柳瀬 敏彦	内分泌・糖尿病内科	Corticotroph hyperplasia を示した高齢 Cushing症候群の一例	臨床と研究90(1): 103-106, 2013
5	阿部 光市	消化器内科	好酸球浸潤が目立つ原因不明の慢性大腸炎の1例	胃と腸 (Vol.48(13) 1945-1952,2013)
6	平野 涼介	呼吸器内科	当科で診断されたサルコイドーシスの閉塞性換気障害の検討	日本サルコイドーシス/ 肉芽腫性疾患学会雑誌 Vol 33(1/2) 79-82,2013
7	石井 寛	呼吸器内科	季節性インフルエンザ治療におけるクラリスロマイシン併用効果の検討	Jpn J Antibiot Vol 66(Suppl.A) 5-8,2013
8	渡邊 廉也	腎臓・膠原病内科	透析中の急性腹症より診断に至った腎周囲血腫の1例	日本透析医学会雑誌 Vol 46(8) 723-726,2013
9	福原 康介	神経内科・健康管理科	不完全型ヘルフォルト症候群に伴う神経根障害 自験2症例の報告と文献的考察	BRAIN and NERVE: 神経研究 の進歩(65(8):989-992,2013.8)
10	合馬 慎二	神経内科・健康管理科	アルツハイマー型認知症患者の認知機能および日常生活動作に対するrivastigmineの効果	新薬と臨床(62巻6号 Page1117-1121)
11	三嶋 崇靖	神経内科・健康管理科	施設入居中に発症した高齢発症脳梗塞の転帰の検討	臨床と研究(90:1226-1227)
12	樋口 正晃	神経内科・健康管理科	長大な髄内病変を認めたHTLV-1関連脊髄症の1例	Neuro-Imaging conference筑後佐賀症 例集, 2013
13	柳本 祥三郎	神経内科・健康管理科	皮膚筋炎を基礎疾患として発症した進行性多巣性白質脳症の1例	Neuro-Imaging conference筑後佐賀症 例集, 2013
14	緒方 利安	神経内科・健康管理科	ペナンブラの概念に基づくDWI/PWI topographyと delayed thrombolysis.	脳卒中(35(4): 249-255, 2013)
15	深江 治郎	神経内科・健康管理科	【神経内科医・脳神経外科医が知っておきたい精神症状、徴候】神経心理学的症候群 他人の手徴候	Clinical Neuroscience (31: 1278-1280,2013)
16	木村 聡	神経内科・健康管理科	ゲルストマン・シュトロイスラー・シャインカー病	別冊日本臨床 神経症 候群Ⅰ(第2版)(Ⅰ :687-691, 2013)
17	木村 聡	神経内科・健康管理科	遺伝性プリオン病:ゲルストマン・シュトロイスラー・シャインカー病	別冊日本臨床 神経症 候群Ⅱ(第2版)(Ⅱ :456-460, 2013)

18	坪井 義夫	神経内科・健康管理科	プリオン病の最近の進歩 プリオン病の治療 法開発	NEUROINFECTION 2013(18: 44-47)
19	坪井 義夫	神経内科・健康管理科	遺伝子・再生医療研究から学ぶパーキン ソン病】その他の遺伝子研究 DCTN1/Perry 症候群	医学のあゆみ(247: 1092-1096)
20	坪井 義夫	神経内科・健康管理科	【プリオン病-up to date】獲得性(感染性)プ リオン病 変異型Creutzfeldt-Jakob病	Clinical Neuroscience 2013(31: 1074-1076)
21	坪井 義夫	神経内科・健康管理科	【パーキンソン病診療の新しい展開】ドパミン アゴニストの使い分け	Mebio(30: 24-30)
22	坪井 義夫	神経内科・健康管理科	【神経疾患-その多彩な症状と診断手順】診 断の方法と手順 歩行障害	Clinical Neuroscience 2013(31: 571-573)
23	坪井 義夫	神経内科・健康管理科	プリオン病の治療:現状と研究の最前線	臨床神経学 2013 (53(11):1255-7)
24	坪井 義夫	神経内科・健康管理科	パーキンソン病の最新治療	福岡県医学会誌 2013 (5: 67-72)
25	津川 潤	神経内科・健康管理科	スピロヘータ感染症、真菌感染症	朝倉書店内科学第10 版2013
26	緒方 利安	神経内科・健康管理科	病変形状に応じた対応と工夫. D carotid near-occlusion. 頸動脈内膜剥離術プラク ティス	メディカ出版(pp 222- 226, 2013)
27	深江 治郎	神経内科・健康管理科	神経症候群II 2番染色体に連鎖する遺伝性 パーキンソン病	日本臨床(pp.73-76. 2014)
28	合馬 慎二	神経内科・健康管理科	精神科臨床エキスパート 誤診症例から学 ぶ認知症とその他の鑑別疾患 第9章 神経疾患における認知症様症状	医学書院(Page 168- 180)
29	三嶋 崇靖	神経内科・健康管理科	一酸化炭素中毒	今日の神経疾患治療 指針(第2版. Pp. 890- 892)
30	坪井 義夫	神経内科・健康管理科	家族性Creutzfeldt-Jakob病./【感染症症候 群(第2版)-症候群から感染性単一疾患まで を含めて-[上]】プリオン病 遺伝性プリオン 病	日本臨床 別冊感染症 症候群(上)(788-791)
31	合馬 慎二	神経内科・健康管理科	神経疾患における認知症様症状	医学書院(pp.168- 180)
32	吉村 一郎	整形外科	大人の扁平足:扁平足に合併しやすい他の足部変形	Monthly Book Orthopaedics26(6): 43-47, 2013
33	吉村 一郎	整形外科	整形外科最前線あなたならどうする?	臨床整形外科48(7): 721-724, 2013
34	吉村 一郎	整形外科	足関節鏡視下滑膜切除術	臨床スポーツ医学臨時 増刊号30:185-187, 2013
35	鎌田 聡	整形外科	足関節鏡視下滑膜切除術 -術後リハビリテーション	臨床スポーツ医学臨時 増刊号30:467-470, 2013
36	毛利 正玄	整形外科	高位脛骨骨切り術を受けたCさんの術前・術 後看護	整形外科看護18(8): 756-761, 2013
37	吉村 一郎	整形外科	足部・足関節の捻挫で生ずる骨折ならびに 骨軟骨損傷	関節外科33(1):32- 37, 2014

38	伊崎 輝昌	整形外科	肩関節 上腕骨近位端骨折に対する手術	整形外科看護18(6): 562-567, 2013
39	高木 誠司	形成外科	心不全症状を伴う乳児血管腫に対してプロ ブラノロール内服が有効であった1例	日形会誌 Vol33(10):762- 765,2013
40	重森 健	形成外科	Nuss法術後の遅発性血胸の1例	日形会誌 Vol34:103-107,2013
41	大慈弥 裕之	形成外科	先天性外耳異常の再建法 埋没耳の治療(2) —非手術療法(矯正装具)と手術(猫耳皮弁)—	形成外科 56(6):595-602,2013
42	大慈弥 裕之	形成外科	最新の乳房再建術	臨床と研究 90(10):71-73,2013
43	大慈弥 裕之	形成外科	DIEPによる乳房再建術:美的乳房マウンド再 建のための皮弁循環の確保	PEPARS 84:62-67,2013
44	高木 誠司	形成外科	【軀幹の先天異常治療マニュアル】ポーランド 症候群患者の胸壁再建	PEPARS 76:67-73,2013
45	竹下 恵美	看護部(4北病棟)	ロボットスーツHAL®を用いた急性期リハビリ テーションにおける看護の実際-看護手順の 紹介と看護師の役割	BRAIN NURSING 29(8):90-98, 2013
46	三木 浩一	脳神経外科、放射線科、 病理、小児科	Bilateral Simultaneous Cavernous Sinus Samplingが確定診断に有用であったCushing 病の1例	福岡大学医学紀要 40(3/4):197-202, 2013
47	湧田 尚樹	脳神経外科	Secondary Trigeminal Neuralgia Caused by a Tentorial Dural Arteriovenous Fistula: A Case Report and Literature Review	福岡大学医学紀要 40 (1/2):61-65, 2013
48	田代 忠	心臓血管外科	Off-pump coronary artery bypass: techniques, pitfalls, and results	Gen Thorac Cardiovasc Surg Vol.61(8): 429-434
49	佐藤 典子	皮膚科	腫瘍性疾患 老人性色素斑「レーザーを勧 める前に」	MB Derma Vol 208 65-70, 2013
50	境 哲平	皮膚科	図説 Myxofibrosarcoma	西日本皮膚科 Vol 75(2) 117-118, 2013
51	佐藤 典子	皮膚科	QスイッチNd:YAGレーザーによるトーニング 治療 いつかは肝斑も!	Visual Dermatol Vol 12(6) 666-668, 2013
52	今福 信一	皮膚科	皮膚科学 乾癬と生物学的製剤	医学のあゆみ Vol 246(8) 580-581, 2013
53	中山 樹一郎	皮膚科	悪性黒色腫の治療 化学療法 局所灌流療法	日本臨床 Vol 71(増4) 349-352, 2013
54	徳永 哲夫	皮膚科	図説 Kyrle病	西日本皮膚科 Vol 76(1) 1-2, 2014
55	松崎 洋吏	泌尿器科	Tespa 1 protein is phosphorylated in response to store-operated calcium entry.	Biochem Biophys Res Commun 434(1):162- 5,2013
56	松崎 洋吏	泌尿器科	Tespa 1 is a novel component of mitochondria-associated endoplasmic reticulum membranes and affects mitochondrial calcium flux	Biochem Biophys Res Commun 433(3):322- 6,2013
57	古賀 洋介	泌尿器科	経直腸的前立腺生検におけるニューキノ ンとタゾバクタム/ピペラシリン(TAZ/PIPC)の 予防抗菌薬としての検討	西日本泌尿器科 75(10):501-504,2013

58	田中 正利	泌尿器科	九州地方における間質性膀胱炎の実態調査	西日本泌尿器科 75:522-531,2013
59	田中 正利	泌尿器科	平成24年度福岡市における前立腺がん検診	福岡市医報 55(1):1-6,2014
60	入江 慎一郎	泌尿器科	排泄と予防的スキンケア「尿失禁のメカニズム」	臨床看護 39(6):801-805,2013
61	松岡 弘文	泌尿器科	上部尿路閉塞性疾患	臨床泌尿器科 67(4):145-147,2013
62	松岡 弘文	泌尿器科	下部尿路閉塞性疾患	臨床泌尿器科 67(4):148-150,2013
63	野尻 剛志	産婦人科	低置胎盤では内子宮口から胎盤下縁の距離と胎盤辺縁の厚さが分娩時出血量の予測となるか？	産婦人科の実際 62:725-729, 2013
64	吉兼 由佳子	産婦人科、総合周産期母子医療センター	Prenatal Diagnosis of High Grade Atrioventricular Block with Polymorphic Ventricular Premature Contractions due to Congenital Long QT Syndrome Using Doppler Flow Recording	Med Bull Fukuoka Univ 4 : 67-71,2013
65	吉里 俊幸	産婦人科、総合周産期母子医療センター	常位胎盤早期剥離における超音波所見と重症度との関連に関する検討	日本周産期・新生児医学会雑誌 49:65-67, 2013
66	吉里 俊幸	産婦人科、総合周産期母子医療センター	周産期の画像診断 母体・胎児編 I.超音波診断 H. 胎盤・臍帯・羊水 36常位胎盤早期剥離	周産期医学 43増刊号 :254-257, 2013
67	梅田 尚靖	眼科	通院距離からみた加齢黄斑変性患者の特徴と経過	眼科手術 26: 669~673,201375、2011
68	中川 尚志	耳鼻咽喉科	聴器扁平上皮癌の治療戦略と成績—今後の課題	耳鼻と臨床 106(2)97-100 2013
69	山野 貴史	耳鼻咽喉科	ブロー液作製後の経時的な内耳毒性と効力変化の検討	Otology Japan 23(1)31-34 2013
70	村上 健	耳鼻咽喉科	福岡市内聾学校在籍児と普通小学校に在籍する聴覚障害児の国語力に関する検討	耳鼻と臨床 59(2):45-54 2013
71	山野 貴史	耳鼻咽喉科	小児いびき症83例の検討	耳鼻咽喉科臨床 106(3):235-240 2013
72	大門 康子	耳鼻咽喉科	クリニカルパス導入による耳科手術患者の入院日数への効果	耳鼻咽喉科臨床 106(6) 489-494 2013
73	山野 貴史	耳鼻咽喉科	咽頭癌に対するELPS術後の嚥下機能に関する検討	嚥下医学 2(2):228-233 2013
74	山野 貴史	耳鼻咽喉科	点耳薬剤の内耳毒性とMRSAに対する殺菌効果に対する実験的研究 —ブロー液、ピドンヨード、強酸水の比較—	耳鼻と臨床 59 (4):162-166 2013
75	坂田 俊文	耳鼻咽喉科	聴覚過敏に対する不快閾値検査の有用性—急性低音障害型感音難聴での先行調査—	Audiology Japan 56:218-225 2013
76	坂田 俊文	耳鼻咽喉科	福岡地区における急性低音障害型感音難聴の診療についてのアンケート調査	耳鼻咽喉科臨床 106(8):687-691 2013
77	三橋 泰仁	耳鼻咽喉科	中咽頭線維性脂肪腫が長期経過で悪性転化し、脂肪肉腫となった1例	頭頸部外科 23 (2):211-217 2013

78	末田 尚之	耳鼻咽喉科	経乳突的顔面神経減荷術の術式変更に伴う術後難聴の評価	Facial Nerve Research vol.33 :129-131 2013
79	山野 貴史	耳鼻咽喉科	下咽頭異物摘出後に嚥下障害が増悪した一症例	嚥下医学 56-60 2013
80	末田 尚之	耳鼻咽喉科	喉頭と頸部に同時発生した成人型横紋筋腫の1例	耳鼻と臨床 59:(5)201-208 2013
81	大門 康子	耳鼻咽喉科	Upbeat nystagmus を認めた小児平衡障害の1例	耳鼻と臨床 59:(5)201-208 2013
82	大庭 哲	耳鼻咽喉科	顎関節脱臼により気付かれた薬剤性ジスキネジアの1例	耳鼻と臨床 59(4):183-185 2013
83	大庭 哲	耳鼻咽喉科	顔面神経麻痺を生じた小児横紋筋肉腫の1例	耳鼻と臨床 59(2):78-83 2013
84	吉満 研吾	放射線科	肝のMRエラストグラフィがもたらす患者への貢献	新医療 Vol 40(6): 61-64, 2013
85	吉満 研吾	放射線科	肝臓における3T MRI最前線 MRエラストグラフィと肝内脂肪測定を含めて	Rad Fan Vol 11(10): 20-21, 2013
86	吉満 研吾	放射線科	テクニカルタームから読み解くMRIの動向 MRエラストグラフィ 3T装置による保険適用検査としての初期経験	INNERVISION Vol 28(9): 17-19, 2013
87	桑原 康雄	放射線科	放射線被曝を学ぶ 基礎知識 医療行為による被曝を含めて	日本耳鼻咽喉科学会 会報 Vol 116(10): 1150-1153, 2013
88	高野 浩一	放射線科	スッキリ解決!Q&A 通常のMRIやCTでは脳腫瘍か脳出血かの判断が難しい場合、よい工夫はないでしょうか?	Brain Nursing Vol 2: 152, 2013
89	吉満 研吾	放射線科	3TMRにおける肝臓MRエラストグラフィとIDEAL-IQ (脂肪鉄評価)	映像情報Medical Vol 45(14): 66-74, 2013
90	高野 浩一	放射線科	脳神経領域の標準的撮像法-(CQ10) 亜急性・慢性の経過で頭蓋内占拠性病変が疑われる患者にはどのような画像診断検査を推奨するか?	画像診断ガイドライン 2013版、日本医学放射線学会、日本放射線科専門医会・医会(編), p79-81, 金原出版, 2013
91	吉満 研吾	放射線科	消化器領域の標準的撮像法-(B) 胆嚢・胆道の撮像法、CQ76 急性胆管炎が疑われた場合行うべき画像検査は何か?	画像診断ガイドライン 2013版、日本医学放射線学会、日本放射線科専門医会・医会(編), p219-222, p266-267, 金原出版, 2013
92	藤光 律子	放射線科	乳房領域の標準的撮像法-(CQ 134) 乳房温存療法後の乳房の局所再発の定期的経過観察にCT、MRI、超音波を推奨するか?	画像診断ガイドライン 2013版、日本医学放射線学会、日本放射線科専門医会・医会(編), p422-423, 金原出版, 2013
93	吉満 研吾	放射線科	第1章 成人脊椎の撮像技術、第2章 傍脊柱軟部組織	画像でみる脊椎・脊髄 その基礎と臨床 (和訳) 塩田悦仁(監訳), p1-43, 医歯薬出版株式会社, 2013

94	山下 真一	放射線科	第3章 正常な脊柱: 概要と頸椎	画像でみる脊椎・脊髄 その基礎と臨床 (和 訳) 塩田悦仁(監訳), p47-77, 医歯薬出版株 式会社, 2013
95	高野 浩一	放射線科	第4章 正常な脊柱: 胸椎、腰椎、尾骨、第5 章 正常な脊髄と髄膜	画像でみる脊椎・脊髄 その基礎と臨床 (和 訳) 塩田悦仁(監訳), p79-14, 医歯薬出版株 式会社, 2013
96	吉満 研吾	放射線科	脂肪抑制関連技術—FLEX/mDIXON法	MRI応用自在 第3版 高原太郎(監), p54- 56, MEDICAL VIEW 社, 2013
97	濱田 緒美	脳神経外科,放射線科	咽頭痛で発症した椎骨動脈解離の1例	脳神経外科 Vol 41(12): 1081- 1085, 2013
98	桑原 康雄	放射線科	第7回全国核医学診療実態調査報告書	RADIOISOTOPES Vol 62(8): 545-608, 2013
99	吉満 研吾	放射線科	Erratum to: Warming effect on miriplatin- lipiodol suspension for potential use as a chemotherapeutic agent for transarterial chemoembolization for hepatocellular carcinoma: preliminary clinical experience	Cardiovasc Intervent Radiol Vol 36(6): 1722, 2013
100	吉満 研吾	放射線科	非アルコール性脂肪肝 (NAFLD)と非アル コール性脂肪肝炎 (NASH)	画像診断 Vol 34(1): 58-60, 2014
101	吉満 研吾	放射線科	【消化器MRIの読み方:臨床に役立つ最新 知識と読影のポイント】脂肪のコントラストと 定量化	臨床消化器内科 Vol 29(3): 363-369, 2014
102	桑原 康雄	放射線科	核医学の現状と今後の病院経営に果たす役 割	新医療 Vol 41(3): 88-90, 2014
103	吉満 研吾	放射線科	消化器:肝胆膵	臨床放射線 Vol 59(3): 406-408, 2014
104	喜多 涼介	歯科口腔外科	Availability of Cephalometric Radiographs Constructed from Three-dimensional Computed Tomography: Transaction research to three dimensional from two dimensional	Med.Bull.Fukuoka Univ. 40(3/4):129-140, 2013
105	福田 宏幸	リハビリテーション部	ロボットスーツHAL®の急性期リハビリテー ション適応に関する研究 - HAL®訓練施 行前後のアンケート調査分析 -	臨床と研究 Vol 90(5):703-8, 2013
106	渡邊 淳子	リハビリテーション部	頸動脈内膜剥離術(CEA)前後の認知機能 の変化についての検討 - 特に左右の病変 による違いについて -	高次脳機能研究 Vol 33(4):388~ 94,2013
107	松永 彰	臨床検査部	脂質異常症—基礎・臨床研究の最新知見— IV 脂質異常症の臨床 原発性脂質異常症の病因・病態・診断・治療 原発性低HDLコレステロール血症 家族性HDL欠損症/Tangier病	別冊 日本臨床 71(増3):267-274, 2013
108	松永 彰	臨床検査部	特集:診療ガイドラインに活用される臨床検 査 「糖質脂質代謝領域」	臨床検査 58 (1): 34-38,2014
109	橋本 丈代	感染制御部	多剤耐性菌対策ガイドラインで推奨される接 触予防策と患者周辺環境対策遵守の実態	環境感染誌 Vol.28(6)325-333.2013

110	早見 美樹	看護部(4階西病棟)	日本版ニーチャム混乱・錯乱状態スケールを使用した家族参画への取り組み ～患者・家族と術後せん妄の評価を行って～	日本看護学会論文集 老年看護 第44回 7～10、1014
111	塚原 夕貴	看護部(5階西病棟)	術後せん妄予防のための資格的教材の効果	日本看護学会論文集 老年看護 第44回 11～14、2014
112	山田 由李子	看護部(4階北病棟)	経験2年目の看護師の脳神経疾患患者に対するトイレ介助の臨床判断	日本看護学会論文集 看護総合 第44回 70～73、2014
113	中畑 加奈子	看護部(救命救急センター)	看護記録からみた救命センターのインフォームド・コンセントに同席した看護師の役割遂行の現状	日本看護学会論文集 成人看護Ⅰ 第44回 19～22、2014
114	高田 徹	感染制御部	Genome Sequences of Multidrug-Resistant <i>Acinetobacter baumannii</i> Strains from Nosocomial Outbreaks in Japan.	Genome Announc. Vol 1(4) : e00476-13、2013.
115	高田 徹	感染制御部	福岡大学筑紫病院におけるMethicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA)臨床分離株の検出状況及び各種抗菌薬に対する感受性の推移	YAKUGAKU ZASSHI Vol 134(2):269-276、2014.
116	高田 徹	感染制御部	グラム陽性球菌感染症に対するDaptomycinの有効性・安全性の評価	医療薬学, Vol 40(3), 147-153, 2014.

合計116

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 福岡大学病院臨床研究審査委員会規程 ・ 福岡大学病院臨床研究審査委員会標準業務手順書	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかなとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 ・ 福岡大学利益相反に関する規程 ・ 福岡大学臨床研究利益相反ポリシー	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかなとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年6回
・ 研修の主な内容 ・ 臨床研究倫理指針解説、試験 ・ ヒトゲノム遺伝子解析倫理指針解説 * 研究開始に際して、ライセンス制度を制定している。	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかなとすること）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- ・循環器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・消化器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・呼吸器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・精神神経科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・小児科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・呼吸器・乳腺内分泌・小児外科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・整形外科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・形成外科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・脳神経外科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別紙資料参照）
- ・心臓血管外科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別紙資料参照）
- ・皮膚科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・泌尿器科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別紙資料参照）
- ・産婦人科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別紙資料参照）
- ・眼科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・耳鼻咽喉科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・放射線科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）

2 研修の実績

研修医の人数	85 人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
朔 啓二郎	循環器内科	診療部長	36年	
向坂 彰太郎	消化器内科	診療部長	35年	肝胆膵 領域
渡辺 憲太郎	呼吸器内科	診療部長	37年	
西村 良二	精神神経科	診療部長	35年	
廣瀬 伸一	小児科	診療部長	34年	
岩崎 昭憲	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	診療部長	31年	
伊崎 輝昌	整形外科	診療部長	26年	
大慈弥 裕之	形成外科	診療部長	34年	
井上 亨	脳神経外科	診療部長	34年	
田代 忠	心臓血管外科	診療部長	37年	
中山 樹一郎	皮膚科	診療部長	38年	
田中 正利	泌尿器科	診療部長	34年	
宮本 新吾	産婦人科	診療部長	31年	日本婦人科腫瘍学会専門医
内尾 英一	眼科	診療部長	29年	
中川 尚志	耳鼻咽喉科	診療部長	28年	
吉満 研吾	放射線科	診療部長	28年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・ 内容 院内教育（全職員対象） ・ 研修の期間・実施回数 平成 25 年度 月に 1 回
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・ 研修の主な内容 新採用者に対する研修 ・ 研修の期間・実施回数 毎年 4 月上旬～中旬・1 回 ・ 研修の参加人数 158 名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・ 研修の主な内容 メディカルセミナー ・ 研修の期間・実施回数 平成 25 年度 4 回 ・ 研修の参加人数 422 名

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 田村和夫	
管理担当者氏名	庶務課長 菊池 孝志 医療管理課長 藤井 直彦 医事課長 赤木 須美男 医療情報部事務室長 金森 勝俊 薬剤部長 二神 幸次郎 放射線部技師長 田中 稔	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		庶務課、医療情報部、放射線部、薬剤部、手術部、看護部、臨床検査部、病理部	・平成21年8月5日から、入院診療録、外来診療録とも電子カルテシステムの運用を開始。電子カルテシステムは全て患者登録番号で管理。紙での保管を要する診療記録については、電子カルテシステム稼働以前と同じ保管形式を採用。電子カルテシステム稼働以前の入院診療録は、入院期間毎に作成され、ターミナル・ディジット方式にて分類保管。外来診療録は、各科共通として患者ごとに作成され、登録番号順に保管。入院診療録は最終来院日から20年間、外来診療録は15年間保管。入院診療録の病歴データは病歴管理システムの部門サーバーに保存。 処方せん：薬剤部内で保管し2年を経過後月単位で廃棄 薬剤管理指導記録：PICS（薬剤管理指導支援システム）から電子カルテに送信、各患者カルテに保管。同記録はPICS上でも確認可能。現在、直接電子カルテ記事に記載を原則としており、PICSと併用状態にある。 病棟薬剤業務日誌：薬剤部で保管（電子媒体）。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	先進医療実績報告（帳票管理）
	高度の医療の提供の実績	医療管理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課	
	高度の医療の研修の実績	庶務課	
	閲覧実績	庶務課 医療情報部	平成25年度 紹介率集計表（帳票管理）
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療管理課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療管理課 医事課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十体一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	医療安全管理部にて一括管理 以下項目、上記と同じ
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実	医療安全管理部	

制第一項 保各 の号 状及 況 第九 条の 二十 第一 項	施状況		
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	感染制御部にて管理
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	医療安全管理部にて一括管理 以下項目、上記と同じ
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一條の十一第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	庶務課 感染制御部 医療安全管理部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置	臨床工学センター

	体制の確保の状況	状況	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	事務長 奥菌邦広	
閲覧担当者氏名	庶務課長 菊池孝志、医事課長 赤木須美男 医療情報部事務室長 金森勝俊	
閲覧の求めに応じる場所	病院B会議室	
閲覧の手続の概要		
閲覧希望者は、閲覧受付窓口である庶務課に諸記録を閲覧したい旨を申し出る。閲覧受付窓口は、これを受け閲覧担当者に連絡し、日程調整のうえ、閲覧担当者同席のもと病院B会議室で諸記録を閲覧する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 安全管理に関する基本的考え方 2. 安全管理のための委員会および院内の組織に関する基本事項 3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 安全確保を目的とした改善策を講ずるための基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年（下記参照）回
・ 活動の主な内容： 1. 医療安全管理委員会（月に 1 回） 2. 医療安全管理部小委員会（月に 1 回） 3. セーフティーマネージャー会（月に 1 回） 4. 医療安全カンファレンス（週に 1 回）	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 9 回
・ 研修の主な内容：別紙参照 （医療安全院内教育 9 回、医療安全実践セミナー 1 1 回、BLS講習会 9 回）	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ①医療事故・合併症・重要なインシデント事例の検討・医療安全教育の企画。 ②医療安全管理者が抽出したインシデント事例を医療安全管理部小委員会で検討し、改善を要するものはセーフティーマネージャー会を通じて伝達している。 ③医療安全管理部長および医療安全管理者は、事故・インシデント・合併症発生時など、必要に応じて当事者、当該部署と個別に対応し指導する。特に重要事例に関しては、検討会を開いて、迅速な対応を心掛けている。 ④病院全体の問題として取り上げる必要がある事例は、医療安全管理委員会に提言し、安全管理の改善に役立てる。 ⑤「安全管理レポート」（毎月）と「医療安全情報」（適時）を発行し、全職員へフィードバックおよび周知徹底を図っている。 ⑥医療安全管理院内ラウンドを月 1 回実施し、現状把握および周知徹底を図っている。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（1 名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（1 名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員：専任（7）名 兼任（3）名 ・ 活動の主な内容： ≪医療の安全管理≫ ①安全管理に係る会の運営 ②医療事故発生時の対応 ③医療安全に係る連絡調整 ④医療事故防止に向けた内部監査 ⑤インシデント報告・アクシデント報告の分析 ⑥安全管理に関する教育・研修 ⑦安全管理レポート・医療安全情報の発行 ≪患者からの相談≫ 患者からの苦情相談への対応	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 院内感染対策のための委員会および院内の組織に関する基本事項 3. 感染対策に関する教育・研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応 6. 感染対策の閲覧に関する基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容： ・ 感染対策委員会 (1 回/月) ・ 感染制御部会議 (1 回/月) ・ セーフティーマネージャー会議 (1 回/月) ・ 看護部内感染対策委員会 (1 回/月)	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 9 回
・ 研修の主な内容：別紙参照 (医療安全院内教育 4 回、医療安全実践セミナー 5 回)	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 1 回/週、ICT (ICD、ICN、細菌検査技師、薬剤師) が病棟ラウンドを行い、耐性菌サーベイランスを実施する。病棟ラウンドに際しては、資料 (細菌検査室で全部署 2 週間分の分離菌一覧表、薬剤部で抗MRSA使用患者一覧表、カルバペネム系抗菌薬使用患者一覧表、ICNが病棟別耐性菌検出患者一覧表、ラウンドシート) を準備する。 2. 環境ラウンドの実施とフィードバック (病棟部門、外来部門) (5 月、8 月、11 月、1 月、3 月) 3. 感染対策システム (電子カルテ端末上) で毎日、血液培養陽性者、抗酸菌陽性者、新規多剤耐性菌検出患者等の報告を確認する。 4. 院内感染を疑う場合には感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応する。 5. 行政への報告対応が必要な場合には、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応する。 6. アウトブレイク等問題が発生した部署については、当該部署のスタッフを対象に研修会を開催する。アウトブレイク介入事例については、病院職員に対して、電子カルテ端末上で通知、診療部長会、セーフティーマネージャー会を通じて感染対策について周知徹底を図る。	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 9 回
・ 研修の主な内容： ・ 毒薬・劇薬について ・ 医薬品健康被害救済制度について ・ 化学療法の安全な投与 ・ 知っておくべき薬剤の知識（注射薬について） ・ 報道事例から学ぶ「安全に必要な新しい視点」	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： ○ 医薬品の採用；薬事委員会において採用可否審議（薬剤部は事務局）、医薬品安全管理責任者は委員として参加 ○ 医薬品の管理；期限管理等を確認表を用いて各部署にて確認。月単位で医薬品安全管理責任者が確認。新規の重点管理薬に対しての手順策定など。 ○ 患者に対する医薬品の投薬時から調剤までにに関する事項；ハイリスク薬品の調剤手順に従って調剤等。病棟巡回などで確認 ○ 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項；バーコードによる3点認証導入。薬剤管理指導の推進（持参薬管理から退院時指導まで） ○ 医薬品情報の収集・管理・提供；医薬品情報室による情報収集と必要に応じた情報の提供推進。特に安全性にかかわる情報の発信。副作用情報の収集・一元管理。 ○ 他施設との連携；持参薬管理による持ち込み医薬品の確認。退院時指導による入院中使用医薬品、副作用等の情報をおくすり手帳を介して提供する体制作り	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) 薬剤部医薬品情報室が中心となって収集作業を行う ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 病棟担当薬剤師を通じた情報提供、副作用情報の収集 ・ 危険作業に関する情報を薬袋に記載整備（禁止、注意と2分類し従来記載に追記）	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 2 6 回
・ 研修の主な内容： 安全使用のための研修・学会・医療機器セミナー103回　：主な内容は　シリンジ・輸液ポンプの安全使用、内視鏡機器、酸素療法機器、人工呼吸器、血液浄化装置、生体情報モニター、除細動器、保育器、補助循環装置、麻酔器、大動脈内バルーンポンプ装置、電気メス、低圧持続吸引器、体温維持管理装置、人工臓器、パルスオキシメーター、フットポンプ、経腸栄養ポンプ	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定　　(☒ 有・無) ・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器、シリンジポンプ、輸液ポンプ、経腸栄養ポンプ、麻酔器、低圧持続吸引器、放射線関連装置　12誘導心電計、テレメータ、ベッドサイドモニターパルスオキシメータ、電気手術装置、電動油圧手術台、超音波/非加熱式ネブライザー、逐次型空気圧式マッサージ機、内視鏡関連	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備　　(☒ 有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 情報収集：医薬品医療機器総合機構、日本臨床工学技士会、日本医療機能評価機構、日本医療安全調査機構、その他学会による安全情報の収集、メーカーによる安全情報の収集 情報の周知：院内セーフティーマネージャー会による周知 院内オーダリング画面上に安全情報の掲載 関連部署への資料配布 医療機器の安全使用：臨床工学技士の研修、医療従事者への説明会	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	☒ 有 ☐ 無
【機関名】 日本医療機能評価機構 【時期】 平成 21 年 11 月 22 日付け 認定継続	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有 ☐ 無
近隣の地域に対する情報発信として、3つのセミナーを開催している。 1つ目は、地域の医療関係者対象に、福岡市医師会との共催で開催している「福岡大学病院メディカルセミナー」である。このセミナーは当院の医師が医療知識や診療技術、当院での取り組みについて講演するもので、本年度は6回の開催を予定している。 2つ目は、地域の一般市民を対象にした「学んで予防！<福大病院 健康セミナー>」である。このセミナーは、城南区役所や城南保健所、城南校区の自治協議会や公民館に協力いただき、地域の皆様が知りたいと思っている「健康維持や病気の予防」をテーマに、当院の医師と城南区医師会から紹介いただいた先生方との協同で毎月1回開催しているものであり、地域医療連携活動としても相当な効果を生んでいる。 3つ目は、地域がん診療連携拠点病院として、がん患者さんやそのご家族、そして一般の方を対象に「福岡大学病院がんセミナー」を開催している。このセミナーは、がんの基本的な性状からがんに向き合い闘っていくにあたって必要な知識や技術を知っていただくために、腫瘍センターが中心となっており、ほぼ毎月開催している。 以上の他に、病院パンフレットや年4回発行する季刊誌「福大病院ニュース」において、各診療科(部)の特色や診療技術の紹介、看護師や技師等の専門性の紹介を行い、院内のラックへの配置はもちろん、関係機関に対して送付している。また、公式Webページにおいても、当院の特徴や取り組みについて情報の更新を随時行うほか、クリニカルインディケータ(臨床指標)の公開等も行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有 ☐ 無
2科以上の診療科がセンターとして外来診療を行っている。 「腎・泌尿器・膠原病センター」→腎臓・膠原病内科、泌尿器科 「消化器センター」→消化器内科、消化器外科 「呼吸器センター」→呼吸器内科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 「女性診療センター」→産婦人科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 「皮膚科・形成外科・美容医療センター」→形成外科、皮膚科 「ハートセンター」→循環器内科、心臓血管外科 「小児医療センター」→小児科、小児外科	